

令和2年度 第2回タウンミーティング

のみ社会福祉法人連絡会とのタウンミーティング

日 時 令和2年7月9日（木）18時30分～19時30分

場 所 能美市役所 大会議室（及び ZOOM 配信）

参加人数 会場約30人（ZOOM参加 11法人）

1) 市長 市勢報告

のみ社会福祉法人連絡会の設立をお祝い申し上げ、タウンミーティングの機会をいただいたことに対し御礼申し上げます。市長就任以来、タウンミーティングを月に2回から3回程度実施してきたが、本年度は今日が2回目。新型コロナウイルス感染症の影響でタウンミーティングを自粛してきた。第1回目は商工会青年部とWebで実施することができた。今日は感染症対策を施して、本年度初めて直接対話するタウンミーティングになる。

能美市では手話言語条例を制定している。毎月1回発行の「広報のみ」で手話を紹介するコーナーを設けている。新年号は、私が新年にちなんだ手話を紹介した。

まず社会福祉とは、地域に住む誰もがそれぞれの地域で安心して暮らすことができる地域をつくっていくこと。まさに地域共生社会の実現だと考えている。能美市では、住民や行政、社会福祉協議会など様々な人が関わり合いながら、助け合い、協力できる自助・互助・共助・公助という考え方を重要な要素としている。高齢者福祉・介護保険、障がい福祉、子育て支援、健康増進、都市整備、防災の各分野ごとに計画を策定し、これらと整合性をとって第3次能美市地域福祉計画を策定している。

・能美市の予算

私は、人口増が自治体の勢いを示す最もわかりやすい指標ではないかと考えている。今、能美市は若干人口が減少傾向に陥っている。しかし、人口を増やす力を持っていると思っている。能美市においても合計特殊出生率が低いいため人口は自然減になっているが、いかに社会増としていくかということが課題である。5つの柱と2つの方針から成る全ての政策が移住定住の促進に繋がるという2020年度予算を編成し施策を推進している。このうち4つの柱が全て福祉政策に関係している。福祉施策にしっかりと取り組んでいくことが重要であると認識している。能美市は2005年に合併してから、高齢化率、1人暮らし世帯の世帯数、要介護者数は増え、日本全体の市町と同じような状況にある。そして、社会保障費が予算上に占める割合も年々高まっている。医療費の増加、そして子育て政策をかなり手厚くやっているということが背景にある。具体的には保育園や児童館の整備等が含まれている。そして老人福祉費も今後増えていく可能性がある。

今後は、公共投資を効率よく実施し、人口を増やしながら税収を高めていくということが大変重要である。

・能美市福祉施策の強みと課題

能美市の福祉施策を進めていく上での強みは、互助という分野が、能美市は進んでいること。その背景には、高い市民力と地域力がある。市内 74 全ての町会・町内会長から強力に支援をいただいている。そして、民生委員・児童委員、各種ボランティア団体の方々に様々な場面で支援をいただいている。また、医療や介護従事者が定期的に協議をしている「メモリーケアネットワークのみ」は、他市町村にはない組織であり、本当にいろんな意味で助けていただいている。さらにこの「のみ社会福祉法人連絡会」も大きな強みである。

課題は少子高齢化、核家族化で、それによる 1 人暮らし世帯の増加である。また、福祉における課題は多種多様化し、複雑化している。加えて、福祉関係従事者の人手不足がある。そして、医療や介護に必要な情報がいまだにアナログで、共有化されていないという実態をどうしていくかが課題だろうと感じている。

・のみ地域力強化支援ファンド

今取り組んでる具体策については、まず「のみ地域力強化支援ファンド」を今年度立ち上げた。能美市が行っている政策を全て SDGs のゴールに置きかえて、評価をしているかというものを測る必要がある。新国富指標というものをつくって P D C A をしっかりと回していくことに取り組み始めている。この中でいろんなことをやろうとしている。その中のひとつとして、このファンドの一部の基金を使って買い物弱者を送迎する方々の支援をする取り組みを始めている。

・その他の施策

子育て支援施策では、「親子の絆サポート事業」を始めた。親子関係がなかなか上手くいかないという家庭が年々増えている。そのような親子を支援するために、寺井中央児童館の設備を活用した P C I T（親子相互交流療法）の実施や、ペアレントトレーニング「能美ぺあとれ講座」を開催している。また、市内には 15 の公立保育園があるが、幼児教育を子どもたちという要望があり、1 つの保育園を民営化させ、幼児教育の幅を広げていこうと取り組んでいる。

地域生活拠点整備は、障がいのある方が 1 人で暮らすケースが出た場合の支援のひとつとして取り組み始めている。

昨年度から始めた「いきいきキャンペーン」は高齢者の方々に何か生きがいを感じてもらおうということでやり始めた。今年はコロナ禍で敬老会を開催できないため、市政 15 周年ということで 15 をキーワードに、高齢者の皆さん方に喜んでいただけるようなことを考えているところである。

合葬墓については市民から要望が多く、市内で計画を進めている。

のみバスは今年から新たなダイヤ、ルート、停留所でスタートした。利用いただきたい。

そして、今年は新型コロナウイルス感染症対策強化ということで、いろんな取り組みをしてきた。

・今後の計画

今後は、つながる共有するということで、切れ目のない医療介護の支援体制として、高齢者や障がいのある方、患者の情報を全てデジタル化させ、共有できるような仕組みを作ることを考えている。皆さん方からもご協力いただきたいと考えている。

例えば、お子さんの胎児期、3歳半、小学生、中学生への成長の中で、現状では、その個人のデータが一元管理されていない。これをデジタル化し一元管理していく。そして、子育て発達支援センター、認定こども園、小学校、中学校と途切れることなくサポートしていくという体制をとっていきたい。

避難所については、コロナ禍の状況において、特に、高齢者や障がいのある方の避難所をどうしていくかというのは大きな課題。平成25年（2013年）、災害時における福祉避難所の設置運営に関する協定を締結したが、十分機能していないようである。皆さん方とこの協定の見直しをして、市内の弱者の方々の避難について、一度相談させていただきたいと思っている。ぜひご協力いただきたい。

また、福祉対策チームというものを結成できないかと考えている。弱者の方々の課題や悩みは多様化し、新たに生じている。それを正確かつスピーディーに把握して分析する必要がある。この連絡会の8法人の皆様方にとっても、人材確保、あるいは新たな設備投資の課題、また、就労支援では、コロナ禍の影響で今までの仕事がなくなってどうしようかというような、いろんな悩みをお持ちだろうと思う。また市でも、課題解決や施策において皆様方と協力し進めていくことがたくさんある。そのようなことを共有し、解決していく、そんなチームの結成を提案させていただきたい。

2) リアルアンケート

◎地域貢献に法人として協力できるものを次の中から選んでください。

1. 買い物弱者の移送支援
2. 共生型生活支援ハウスの指定管理
3. 地域共生社会のイベントの開催
4. 法人施設を拠点とした居場所の提供

結果は、「3. 地域共生社会のイベントの開催」が最多。

◎能美市に今後最も強化してほしいこと、期待したいことを1つお答えください。

1. 町会、町内会と法人のつなぎ
2. 福祉人材の確保のための学生への奨学金制度
3. 国の補助金の対象にならないものへの資金援助
4. 地域の課題を共有する機会

結果は、「3. 国の補助対象にならないものへの資金援助」が最多、「4. 地域の課題を共有する機会」が次に多かった。

3) 意見交換

(参加者)

- 地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律が6月5日に成立した。子どもと高齢者・障がい者・生活困窮者の全ての人々が地域で暮らし、生きがいを共に創り高め合えることが重要になっていくと思っている。できるだけ実現できるように努力していきたいと思っているが、そのあたりをご教示いただきたい。
- 8050問題に対応した支援チームを組んで、取り組む必要があると思っている。従来の縦割りではなく、横に繋がって取り組むということ。
- 新型コロナウイルスでの教訓から見えた地域課題として、予防対策備品の確保等の必要性を感じた。マスク、アルコール消毒液、非接触の体温計、トイレットペーパー、使い捨て手袋、エプロン等、日ごろから備蓄できるような物を、連携がとれるシステムがあると良いと思う。自粛時の支援サービスのあり方について、スキルアップするためには、研鑽する必要がある。これは市長も先ほど言われたように、アナログの世界から変わる必要がある。それも十分に踏まえながら、支援のあり方を考えていく必要があるだろうと感じている。
- 全国社会福祉協議会から全社協福祉ビジョン2020が発表されている。この中ではやはり地域の中での連携、協働ということが強調されている。人材育成の問題等があるが、どう考えているか聞きたい。

(市長)

- まず社会福祉法の改正に関しては、高齢者や障がい者に対する政策が、これまでの縦割りから全部横断させるようになったということ。人材の確保、あるいは資材をお互いに共用していく等々、共同でやっていける仕組みを作っていけるようになったと考えている。市の施策もこれまで、高齢者、障がい者というように分けて予算を組ん

できたが、横断して行えるようにし、皆さんと共有しながら取り組めるような仕組みを作っていきたいと考えてる。

- 8050 問題についても、いろんな問題が顕在化し、まだ隠れていることもある。それを正確にスピーディーにつかむことが重要だと思っている。先ほど提案したチームをつくること、全体でサポートしていく仕組みが必要だろうと考えている。
- 備蓄品の件について、今回のコロナウイルス関係で、安全安心対策強化ということで約 1 億 200 万円の予算を組み、マスクやアルコールなどを備蓄した。また、今後の備蓄については相談をさせていただき、行政が備蓄するもの、皆さんで揃えていただきたい物を区分して、取り組んでいきたいと考えている。
- 福祉ビジョン 2020 について、SDGs と紐づけして考えることを推奨するという方向性も一般的にある。能美市の政策を全て SDGs に関連づけて推進し、福祉ビジョン 2020 に掲げられてることを進めていきたいと思っている。

(参加者)

- 災害時や感染症の問題が発生したときに、各福祉法人が相互扶助し助け合うシステムが必要だと思っている。また市を交えて検討する機会を持つことができれば良いと思っている。この点について、市の考えを聞きたい。

(市長)

- 福祉避難所には、例えば、障がいのある方や妊娠している方も避難する対象となっている。災害の規模も様々で、大規模災害の場合や、一部の地域に限った場合もある。避難する方の体調や症状など、本当にいろいろな細かい点に配慮が必要になる。これを今、整理し、マニュアル化していく。マニュアル化するにあたって皆さん方にもご協力をいただき、これをしっかりと実行できるように、協定の見直しをしたいと思っている。ご理解ご協力をお願いしたい。感染症に対しても同様に医療の方々からもご協力いただきながら進めていきたいと考えている。

(参加者)

- 能美市の障がい者福祉において、今後どのようなサービスを求めているか。そして、障がい者の働くニーズに対する施策と、社会福祉法人に期待することは何か聞きたい。

(市長)

- まとめて話をさせていただく。障がいのある方にはいろんな意欲があるだろうと思っている。例えば、就労に対する意欲や、地域の中に溶け込んで生活したいという意欲だろう。これらをサポートしていく上で、一人ひとりのニーズにいかにかたえていくかということが大切だろうと考えている。その就労支援について、コロナ禍で仕事が極端になくなったということに対して、仕事の種類をいかに多様化させていくかということが重要ではないかと考えている。仕事の内容の多様化によって、コロナ禍のような状況や、仕事をやってみたいという人達のニーズにも合わせられることが大切だろうと思う。このようなことは1つの法人だけでやっている範囲が狭くなってしまいが、8法人の皆さんでシェアをする、外部に仕事を出しているようなことを8法人の中でお互いにシェアしていくようなことも大切ではないかと思う。ただし、障がいのある方が間違えなく、効率よく仕事ができることは仕事への意欲につながると思うが、仕事を多様化させることは、あるいは障がいのある方にとってはご苦勞も増えるのではないかという思いもしている。そのようなことも、この8法人でシェアしてサポートさせていただくことが重要ではないかと考えており、期待するところである。

(参加者)

- 実は、多職種で見守りができるMSNブックというデジタルツールが何年も前からあるが、個人情報などがバリアになったりする。その辺を今一度検討していただきたい。
- のみバスの運営について、できれば雨宿りができるような屋根がついたバス停があってもいいかと思う。もしくは雨宿りができるような場所にバス停を設置し、そこでちょっと時間を過ごせれば、利用がもう少し増えるのではないかと思う。

(市長)

- バス停の件は多くの市民からも要望がある。200 か所余りのバス停があるので、全部につけるとするのは難しい。例えば、利用者が多い駅や辰口福祉会館のような起点となるバス停は、必ず雨宿りしたり別のことをして待ってもらえるようにしてあるので、ご理解をお願いしたい。

(参加者)

- with コロナについて、今思っているのは、地域包括ケアシステムにしても、地域共生社会にしても、みんないつも密になって接触が多く、情報共有を一生懸命やっている。コロナの時代ではやってはいけないことが中心になってしまう。これは医療だけ

でなく介護福祉の従事者の中でもストレスになってると思う。また、デジタルトランスフォーメーションなど技術力を使いながら、問題をどうやって解決していくか。技術力だけでなく人間力も含めて、どうやっていけば一番いいのかということを with コロナで考えていかなければならないと思う。そこは先ほど示された、連結のためのデジタルツールなどの中に盛り込んでいけばよいのかと思う。

(市長)

- 最近、人のぬくもりというのを改めていいものだと感じている。Webで会議をしたり、意思の疎通を図ってみたりはするが、やはり限界がある。今日は、皆さんのぬくもりを感じながら、皆さんの笑顔を見ながらタウンミーティングができることに喜びというのを感じている。今、新しい生活様式というのを国が提唱をしている。これを踏まえながら、変えることを少しずつ広げていくことしかないのではと思っている。皆さんに聞いていただけるならば、年2回でも構わない。円卓でゆっくりと語り合うことが、地域共生社会の実現のための力になっていくだろうと思っている。

(参加者)

- 今日の福祉対策チームの提案というのは、非常にありがたいことだと思って聞いていた。私どもの法人でも他の自治体間ともいろんな取り組みをやってるが、こういうチームを結成していないところが多い。社会福祉法人が加わって種別を越えてつながるときに、このような市の取り組みがあれば本当に有難いと思う。

以上